

3年『故郷』
——故郷の魅力を伝える批評文を書こう——

○単元・教材の目標とポイント

【単元・教材の目標】

- ・時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解すること。

〔知識及び技能〕(3)ウ

- ・文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会について、自分の意見をもつこと。

〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと(1)エ

【単元・教材のポイント】

本題材の教材『故郷』は、二十年ぶりに帰郷した「私」が、すっかり変わってしまった風景や人々と再会することで、絶望から新たな希望へと変化していく「私」の心情変化を描くことを通して、母国である中国の近代化に一生を捧げようとした魯迅の生き方や考え方が表れた小説である。構成は、主人公の「私」が帰郷する場面から始まり、その故郷での美しさを思い浮かべ、そこに暮らし続けた人々の変容と故郷の変容にふれ、故郷を後にしていく場面で終結する。文章の特徴として、登場人物である「私」「閩土」が、中国の民衆を代表する人物として描かれている。さらに、「厳しい寒さ」「怪しい空模様」などの情景描写が社会状況、時代の変化、人物の精神の変化などのたとえとして、文脈の中でとらえやすく表現されている。登場人物の過去から現在に向かう変容の様子が明確に描写されており、特に、置かれた立場や身分の違いによって生じる人間関係の変化を読み取ることができる。また、本文中には登場人物の経済状況や暮らしぶりなどを想像することが可能な表現も多く見られるため、文章を読んでものの見方や考え方を広げるためには有効である。

これらの作品の特色を踏まえて、故郷の魅力を伝える批評文を書くという言語活動を設定した。「批評」とは、新中学校学習指導要領解説国語編にもあるように「対象とする事柄について、そのものの特性や価値などについて、根拠をもって論じたり評価したりすること」である。

単元の深める段階において、自分なりの「故郷」に対する考えを深めることができれば、単元の目標に迫れると考えた。

〈学び方のポイント〉

批評文を考える際の参考にするため、資料として井上紅梅が訳した『故郷』を準備した。「青空文庫」で生徒でも手軽に読むことができるところから選定した。授業では、情景描写の描き方の違いに着目させ、『故郷』の魅力を考えられるようにした。

| 場面 | 竹内好訳 | 井上紅梅訳 |
|--------------------|---|--|
| 少年閩土との思い出 (回想) | この時突然、私の脳裏に不思議な画面が繰り広げられた——紺碧の空に金色の丸い月がかかっている。その下は海辺の砂地で、見渡す限り緑の西瓜が植わっている。そのまん中に十一、二歳の少年が、銀の首輪をつるし、鉄の刺叉を手にして立っている。 (教科書P164L5~7) | この時わたしの頭の中に一つの神さびた画面が閃き出した。深藍色の大空にかかる月はまんまろの黄金色であった。下は海辺の砂地に作られた西瓜畑で、果てしもない碧緑の中に十一二歳の少年がぼつりと一人立っている。 |
| 離郷する船上での感慨 (離郷) | まどろみかけた私の目に、海辺の広い緑の砂地が浮かんでくる。その上の紺碧の空には、金色の丸い月がかかっている。 (教科書P176L5~6) | 夢うつつのうちに眼の前に野広い海辺の緑の沙地が展開して来た。上には深藍色の大空に掛るまんまろの月が黄金色であった |

○評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--------------------------------------|--|--|
| ・時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解している。 | ・文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会について、自分の意見をもっている。C読むこと | ・言葉がもつ価値を認識し、文章表現から作者の意図を考えながら意欲的に文章を読もうとしている。 |

○学習指導計画（全 6 時）

| 時数 | 学習活動 | 評価基準 |
|----|--|---|
| 1 | ○『故郷』と魯迅についての概要や学習の進め方を知り、本文を一読する。 | ◇学習の進め方について知り、学習に対する関心をもって初発の感想をまとめている。 |
| 2 | ○『故郷』の人物相関図を書き、人物どうしの関係を捉える。 | ◇それぞれの人物像や互いの関係について、人物相関図に時間の変化を意識しながらまとめている。 |
| 3 | ○情景描写から、故郷と「私」の変化について考える。 | ◇情景描写に表された「私」の心情について、文章を比較しながらまとめている。 |
| 4 | ○楊おばさん、閩土の変容とその理由を考え、「私」の希望について考える。 | ◇登場人物の設定の仕方について考え、根拠を示しながら「私」の希望について自分の考えをまとめている。 |
| 5 | ○『故郷』の魅力を伝える批評文を書く。 | ◇自分が考える故郷の魅力について、自分の考えをまとめている。 |
| 6 | ○批評文を交流し、学習全体をとおして身につけた能力や学んだことについて振り返る。 | ◇学習を振り返り、批評文の交流で自分の考えが広がったり深まったりした点を見だし、今後の学習で生かせることを考えようとしている。 |

○本時の展開（3 / 6 時）

【ねらい】

- ・教科書本文と井上紅梅訳を比較して読むことをとおして、情景描写に表された「私」の心情について自分の考えをまとめる。

〈学び方のポイント〉

物語の場面設定を読み取るためには、場面の様子や登場人物の感じている五感描写に留意する必要がある。また、情景描写は情景を表すのみならず、登場人物の心情を象徴させる効果がある。学習に正確に読むための視点を以下のように提示し、言語技術の理解と活用をめざす。

①場を設定させる。

②視覚や聴覚などの五感を感じさせる。

・視覚描写 例「空模様が怪しい」「鉛色の空」「わびしい村々」

・聴覚描写、触覚描写 例「冷たい風がヒューヒュー音を立てて、吹き込んできた」

③登場人物の心情を象徴させる。

・情景象徴法（登場人物の心情を象徴させる表現の工夫）

「紺碧の空」が描かれる「回想」と「離郷」の場面の違い／「竹内好訳」と「井上紅梅訳」の違い

【本時の展開例】

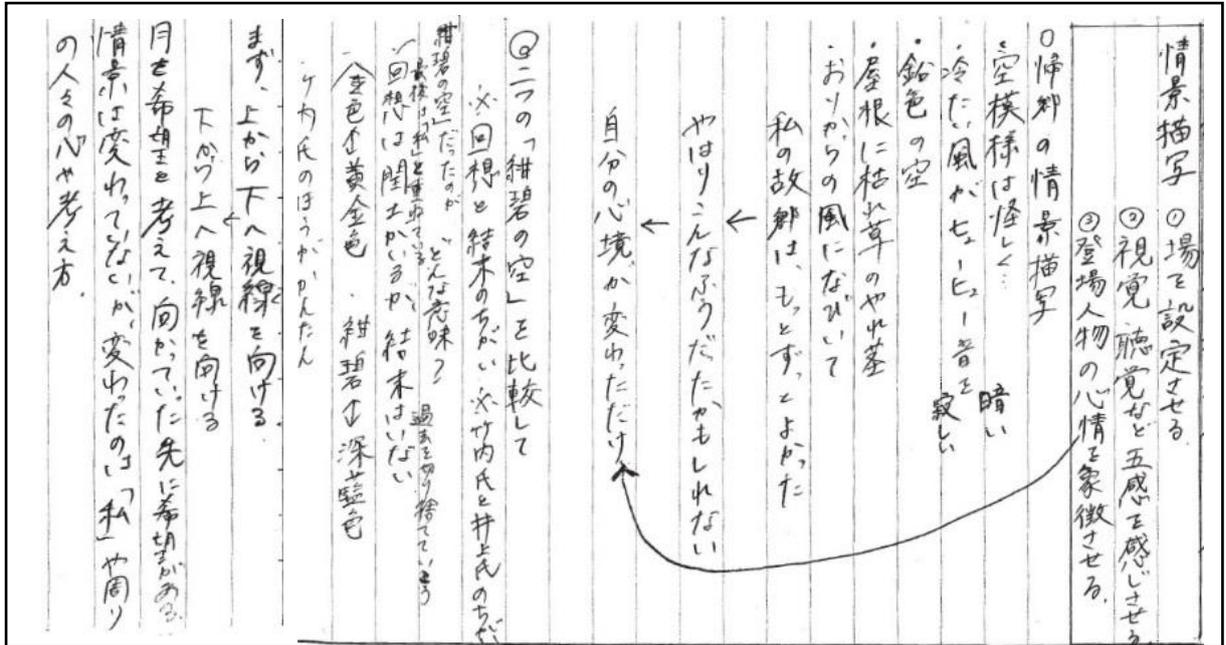
| 学習活動（くくりは生徒の反応例） | 指導の留意点 | ◇評価基準 |
|---|--|--|
| <p>1 前時に作成した「人物相関図」を共有し、登場人物の設定や場面の展開を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回想場面を挟んで時間軸が変わると、登場人物に変化が出てきたな。 ・「私」の家系図から、「私の父」「私」「宏児」の関係について考えられたな。 <p>2 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「私」の心情と情景描写にはどのような関係があるだろうか。</p> </div> <p>3 「私」が帰郷した場面での情景描写について、場の設定や五感を感じさせる表現について捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「空模様は怪しく」「鉛色の空」などから暗い印象を受けた。 ・「冷たい風がヒューヒュー音」のように「私」の聴覚に訴えかけている表現があるな。 <p>4 「私」の心情が象徴的に描かれている情景描写として、「紺碧の空」が描かれる「回想」と「離郷」の場面について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「回想」では「閩土」が描かれているが「離郷」の場面ではないことから、「私」の心情の変化が感じられるな。 <p>5 「竹内」と「井上」の訳を比較し、訳者による情景描写の違いを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視線を下から上に向けているか上から下かの違いがあり、「私」が次へ進もうとしている気持ちが表現されている。 ・「目」と「眼の前」ではどんなニュアンスの違いがあるか。 | <ul style="list-style-type: none"> ○時間の経過に注目させることで、「私」と「閩土」の関係が大きく変化していることを確認する。 ○「私」と「閩土」のそれぞれの父親や子ども・甥の関係について紹介することで、同じ道のりをたどる運命にあることを全体で共有できるようにする。 ○本時は、教科書本文と井上紅梅の訳を比較して読み、情景描写に表された「私」の心情について自分の考えをまとめることを確認する。 ○視覚描写と聴覚描写や触覚描写といった情景描写が同時に描かれることを確認することで、主人公に「寂寥の感」を抱かせるような「場」の設定が行われていることが理解できるようにする。 ○P164L5～7とP176L5～6とを比較し、閩土の姿が消えていることを捉えることで、「私」の気持ちの中で「閩土」への思いが変わってしまったことについて深く考えられるようにする。 ○井上紅梅の訳も参考に二つの情景描写を比較させることで、「私」の心情をどのように表現しようとしているのか考えられるようにする。 ○自分の考えがまとめられた生徒には、情景描写の効果は訳者の意図も考えるよう助言する。 | <p>◇情景描写に表された「私」の心情について、文章を比較しながらまとめている。</p> |

○授業の成果と課題

〈場面の違いの明確化〉

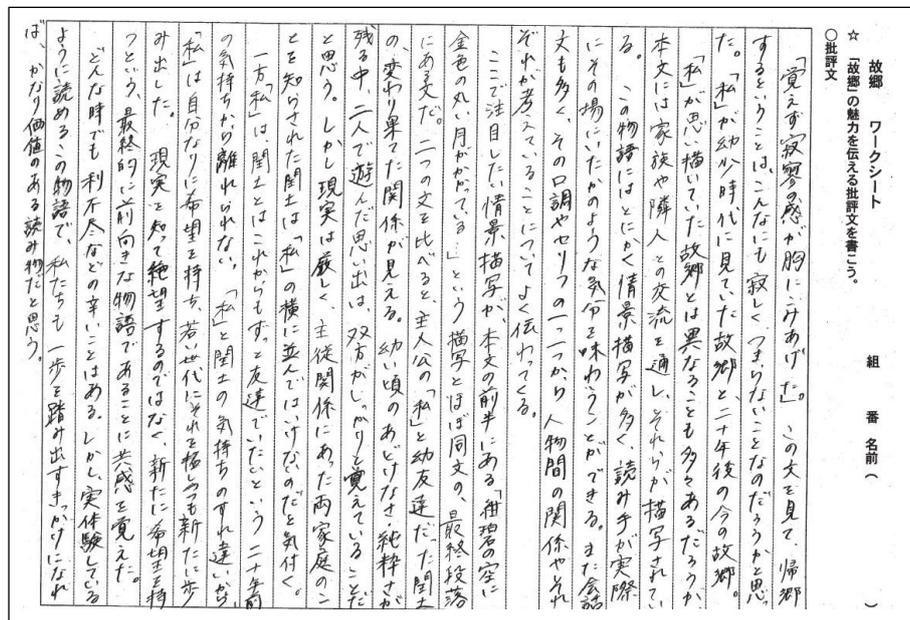
批評文を考える際の参考にするため、資料として井上紅梅が訳した『故郷』を準備した。

情景描写に表された「私」の心情について考える活動において、竹内好の訳と比較しながら読み取ることができた。以下に示したのは、生徒が書いたノート記録である。



井上訳と比較して情景描写を考えることで、竹内訳では気づかなかった「回想場面」と「離郷場面」の違いを知り、「私」の心情をどのように表現しようとしているのか読み取ることができたとわかる。「金色」や「黄金色」などの言葉が作者の意図によって選ばれており、ニュアンスの違いから想像できる情景が変わってくることを感じ取ることができたからだと考える。

一方で、井上が訳した『故郷』の一部だけしか扱わなかったことが本実践の課題である。文章全体から「紺碧の空」についてどのように表現しているのかを考えた方が、本時の学習に深まりをもたらせることができたと考える。また、下は生徒が単元のまとめで書いた批評文である。『故郷』から考えられた人間や社会に対する自分の意見を表現した文章にできた。今度も生徒に提示することが適しているか吟味しながら異なる訳者の資料を選び、生徒の学びを深めることができるような実践を積み重ねていきたい。



○参考資料

- ・『国語科授業づくり 10 の原理・100 の言語技術 義務教育で培う国語学力』堀裕嗣（明治図書 2016 年）
- ・青空文庫：「魯迅全集」（改造社 1932 年）